

[参考事項]

新技術名：県南部リンゴ園におけるハンノキクイムシ越冬成虫の活動盛期は5月である（平成21～23年）

研究機関名 果樹試験場 天王分場  
担当者 高橋 功

[要約]

県南部のリンゴ園にマダラコールを設置し、クイムシ類の誘引消長を調査した結果、8種類以上が誘引された。リンゴの主要な加害種であるハンノキクイムシは、5月の誘引数が多く、被害発生<sup>の報告</sup>や加害が多く観察される時期と一致する。

[参考対象範囲]

普及指導機関、県南部のリンゴ生産者

[ねらい]

県内のリンゴ栽培園では、以前からクイムシ類による被害防止対策を求められてきたが、防除薬剤としてマラソン・MEP乳剤が登録された。そこで、本県のリンゴ主産地である県南部におけるクイムシ類の活動時期を捉え、薬剤散布時期を含めた的確な防除指導に資する。

[技術の内容・特徴]

1. 場内および現地被害園の観察では、主要な加害種はハンノキクイムシおよびサクセスクイムシである。
2. 県南部の現地リンゴ園に設置したマダラコールには、8種類以上のクイムシが誘引され、ハンノキクイムシおよびサクセスクイムシの誘引数が多い（表1）。
3. 2009～2011年の調査では、ハンノキクイムシは4月3半旬～9月3半旬まで誘引が見られ、そのピークは概ね5月上旬～6月上旬である。また、サクセスクイムシは4月3半旬～9月1半旬まで誘引がみられるが、そのピークはハンノキクイムシほど明確でないが、5月上旬～6月下旬まで多い傾向にある。

[成果の活用上の留意点]

1. ハンノキクイムシ越冬世代成虫の2009年の動向は概ね平年を示すが、積雪が多い年や山間部などの気温の上昇が遅れる立地条件下では、発生盛期が遅れたり、発生時期が長引く可能性がある。

[具体的なデータ等]

表1 マダラコールに誘引されたキクイムシ類(2009年)

種名	設置場所		合計
	山手	平地	
カシワノキクイムシ	11	3	14
クスノオオキクイムシ	0	1	1
サクセスキクイムシ	94	327	421
サクラノホソキクイムシ	1	3	4
タイコンキクイムシ	2	3	5
トマツオオキクイムシ	13	0	13
ハンノキクイムシ	497	73	570
マツノキクイムシ	0	4	4
その他(不明種)	9	19	28

調査場所:横手市増田町戸波

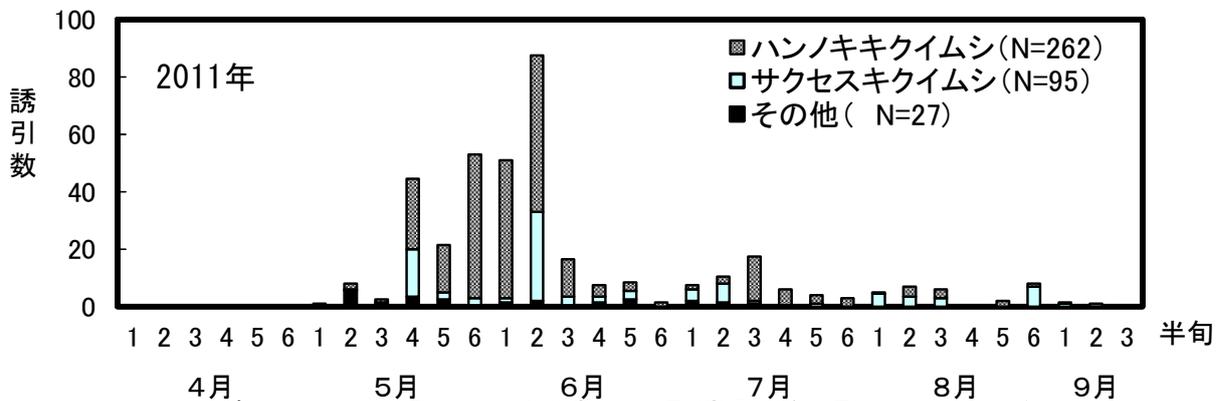
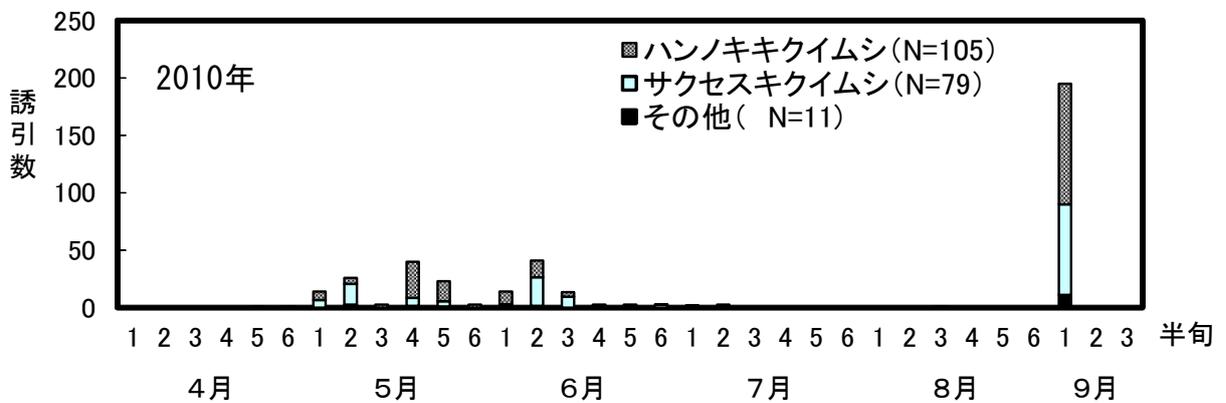
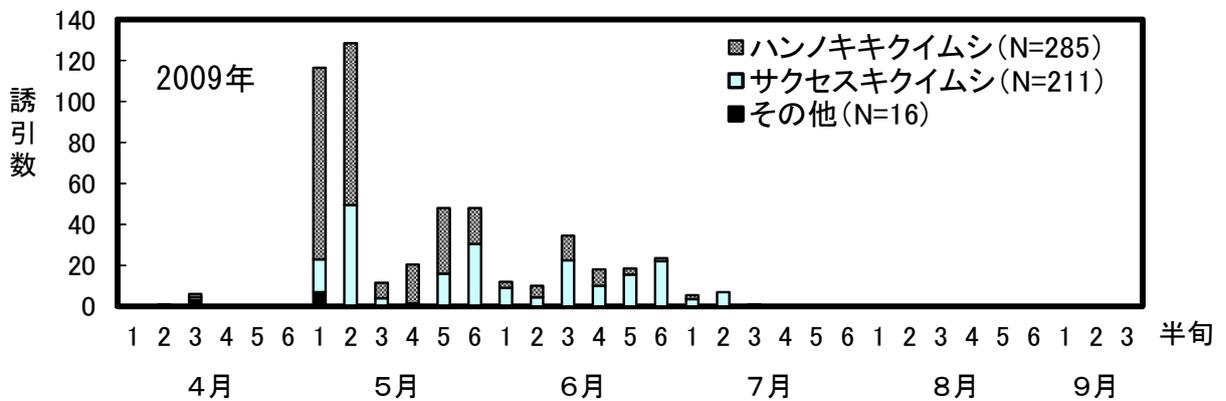


図1 マダラコールによるキクイムシ類の誘引消長(増田町2009~2011年)

[発表論文等]

なし